

日本経済再生戦略株式ファンド
 〈愛称:セブン・シスターズ〉

月次レポート

2020年
 12月30日現在

追加型投信／国内／株式

■基準価額および純資産総額の推移



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- ・参考指数は、JPX日経インデックス400です。
- ・参考指数は、当ファンドのベンチマークではありません。
- ・詳しくは、後記の「本資料で使用している指数について」をご覧ください。
- ・参考指数は、設定日前営業日を10,000として指数化しています。

■騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
ファンド	2.9%	20.6%	29.0%	25.4%	13.4%	122.5%
参考指数	2.4%	11.8%	16.3%	6.3%	1.7%	54.3%

- ・実際のファンドでは、課税条件によってお客さまごとの騰落率は異なります。
- ・また、換金時の費用・税金等は考慮していません。
- ・設定来のファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しています。
- ・分配金実績がある場合は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■組入上位10業種

業種	比率
1 電気機器	26.0%
2 機械	10.7%
3 情報・通信業	8.4%
4 化学	8.3%
5 サービス業	6.7%
6 小売業	6.3%
7 輸送用機器	5.4%
8 精密機器	5.0%
9 医薬品	4.8%
10 保険業	4.3%

■組入上位10銘柄

		組入銘柄数: 53銘柄	
銘柄	業種	業種	比率
1 ファーストリテイリング	小売業		4.0%
2 東京エレクトロン	電気機器		3.5%
3 イビデン	電気機器		3.3%
4 エムスリー	サービス業		3.2%
5 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業		2.9%
6 新光電気工業	電気機器		2.9%
7 FUJI	機械		2.8%
8 第一三共	医薬品		2.7%
9 ツガミ	機械		2.5%
10 三菱瓦斯化学	化学		2.5%

- ・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入しています。
- ・原則として、比率は純資産総額に対する割合です。
- ・業種は、東証33業種で分類しています。
- ・コールローン他は未収・未払項目が含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

日本経済再生戦略株式ファンド 〈愛称:セブン・シスターズ〉

月次レポート

2020年
12月30日現在

追加型投信／国内／株式

■運用担当者コメント

【市況動向】

今月の国内株式市況は、新型コロナウイルスワクチン実用化による景気回復期待や米国における追加経済対策の成立などを背景に上昇しました。参考指数であるJPX日経インデックス400も上昇しました。

上旬から中旬にかけては、新型コロナウイルスの新規感染者数が国内外で増加し、国内においては政府の観光需要喚起策の一時停止が決定されるなど経済活動の先行きに対する懸念が広がったものの、ワクチンの実用化に対する期待の高まりなどを受けて上昇しました。下旬は英国などにおける新型コロナウイルスの変異種拡大を受け下落する局面もありましたが、英国と欧州連合(EU)の通商合意や米国における追加経済対策の成立などをを受けて上昇し、月間を通してみると前月末の水準を上回って取引を終えました。

【運用状況(分配金実績がある場合、基準価額の騰落は分配金再投資ベース)】

＜今月の運用成果とその要因＞

今月の当ファンドの基準価額は上昇しました。非鉄大手の「三井金属鉱業」、最先端の半導体材料などを手掛ける「トリケミカル研究所」などが基準価額にプラス寄与しました。一方、インターネット接続サービスなどを提供する「インターネットイニシアティブ」、希少疾患領域に強みを有する「JCRファーマ」などがマイナスに影響しました。

＜今月の売買動向＞

当ファンドでは、組入銘柄の足元の業績動向や株価指標の水準の変化などに留意しつつ、銘柄の入れ替えや比率調整などを行いました。主な買付銘柄は大手システムインテグレーターの「日本ユニシス」など、一部売却を含む主な売却銘柄は創業ベンチャーの「そーせいグループ」などです。

【今後の運用方針】

当面の株式市況は、国内外における新型コロナウイルスの感染拡大により、経済活動の正常化に再び警戒感が台頭する中、ワクチンなどの普及動向や各国の政策対応などを巡り不透明感が継続する展開が想定されます。これまで堅調に推移してきた株式市況は、当面の業績回復を織り込み上値余地は限定的と考えており、今後はこのような厳しい経済状況における各企業の対応力や中長期的な成長性についてより慎重に見極める必要がある局面と認識しています。一方で、引き続き金融緩和的な環境にあることに加え、環境関連や規制改革、行政のデジタル化といった新たな政策への期待の高まり、ワクチンの普及による経済活動の正常化が今後期待されることなどから、中期的に見れば株式市況は堅調に推移すると想定します。

こうした想定を踏まえ、当ファンドが現時点で特に魅力が大きいと考えているのは、日本発の技術やブランドなどを競争力の源泉として世界市場での活躍が期待されるヘルスケア関連企業、世界の中で日本が相対的に遅れている電子決済普及やデジタル化の恩恵を受ける企業、5G携帯電話の普及などインターネット環境の高度化が追い風と期待される企業、コーポレートガバナンスの強化などを通じて自己資本利益率(ROE)向上に積極的に取り組む企業などです。また、こうした分類以外からも、各企業のROE向上に向けた経営方針を確認しつつ、将来の利益成長期待の大きさと株価指標面での割安感の大きさが両立する銘柄を積極的に発掘する取り組みを続けていきます。そして、より期待が大きいと判断した銘柄へのシフトを積極的に進め、ファンドパフォーマンスの向上を図ります。(運用担当者:小島)

・市況の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。

■本資料で使用している指数について

・JPX日経インデックス400とは、東京証券取引所の第一部、第二部、マザーズ、JASDAQを主たる市場とする普通株式等の中から時価総額、売買代金、ROE等を基に原則400銘柄を選定し算出される株価指数です。「JPX日経インデックス400」は、株式会社日本取引所グループおよび株式会社東京証券取引所(以下、総称して「JPXグループ」といいます。)と株式会社日本経済新聞社(以下、「日本経済新聞社」といいます。)によって独自に開発された手法によって算出される著作物であり、JPXグループと日本経済新聞社は、「JPX日経インデックス400」自体および「JPX日経インデックス400」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。「JPX日経インデックス400」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、すべてJPXグループと日本経済新聞社に帰属しています。ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、JPXグループと日本経済新聞社は、その運用およびファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。JPXグループと日本経済新聞社は、「JPX日経インデックス400」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。JPXグループと日本経済新聞社は、「JPX日経インデックス400」の構成銘柄、計算方法、その他「JPX日経インデックス400」の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

※後記の「本資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

日本経済再生戦略株式ファンド (愛称:セブン・シスターズ)

月次レポート

2020年
12月30日現在

追加型投信/国内/株式

■組入上位10銘柄コメント

銘柄	銘柄概要
1 ファーストリテイリング	<ul style="list-style-type: none"> ・カジュアル衣料品店「ユニクロ」を世界展開。自社で企画した製品を中国・ベトナム・バングラデシュなどで生産を行うことで「高品質・低価格」を実現。素材メーカーと連携した製品開発力にも定評。 ・アジアにおける業容拡大を海外ユニクロ事業の成長ドライバーとして注目。会社側は、グレートチャイナ、その他アジア・オセアニア地区を成長の2大柱として出店拡大など注力する方針。
2 東京エレクトロン	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体製造装置の世界大手。広範な製品ラインナップを持つ中、半導体製造プロセスにおける感光剤の塗布と現像を行うコータ/デベロッパなどに強み。 ・インターネットの通信量が急増する中、読み書き速度の速さが注目され、データセンターにおける記憶媒体がハードディスクから半導体メモリを利用したソリッド・ステート・ドライブ(SSD)への置き換えが進んでいることなどを背景に、中長期的な半導体メーカーの設備投資拡大を期待。
3 イビデン	<ul style="list-style-type: none"> ・電子事業はICパッケージ基板やプリント配線板など、最先端の技術で世界のエレクトロニクス分野をリード。セラミック事業ではディーゼル車黒煙除去フィルターや特殊炭素製品(グラファイト)など長年培ってきたコア技術を進化させ、セラミックの新たな可能性を開拓。
4 エムスリー	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者(=医師、看護師、薬剤師、医学生など)向けインターネットサイト「m3.com」(エムスリードットコム)を運営。国内最大規模となる「m3.com」の会員を対象に、医薬品の各種情報を提供するサービス「MR君」などが収益源。 ・「m3.com」に参加する医師のネットワークを背景に、医療にかかわる各種プロセスを低コスト化できる同社の事業機会の拡大に期待。また、国内での経験を活かした海外展開の加速にも注目。
5 三菱UFJフィナンシャル・グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行・信託・証券を融合した新しい価値を志向する金融グループ。「世界に選ばれる、信頼のグローバル金融グループ」を中長期的にめざす姿としている。(1)充実した自己資本の維持、(2)収益力強化に向けた資本活用、(3)株主還元の一層の充実の3つの観点からなる「資本の三角形」のバランスが取れた資本運営を行うことが基本方針。
6 新光電気工業	<ul style="list-style-type: none"> ・トランジスタ用ガラス端子の生産にはじまり、半世紀以上にわたって半導体市場が求める技術・製品を提供。半導体の微細化、高密度化に対応する次世代フリップチップタイプパッケージをはじめ、今後成長が見込まれる市場向けに重点的に経営資源を投下し、競争力強化・収益確保をはかる。
7 FUJI	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品向けなど自動装着装置で高いシェア。電子化が進む自動車関連や、次世代通信規格5G関連などの成長が期待できる市場での新規顧客獲得、及び自動化を中心とした生産ラインのトータルソリューション提案を重点的に行い、FUJIブランドのさらなる浸透とマーケットシェアの拡大をめざす。
8 第一三共	<ul style="list-style-type: none"> ・第一製薬と三共が統合して誕生した医薬品国内大手。新薬事業が収益の中心。代表製品に抗凝固剤「エドキシバン」、高血圧症治療剤「オルメサルタン」、抗血小板剤「プラスグレル」など。 ・「がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業」となることを「2025年ビジョン」として掲げ、がん領域を強化。注目製品は抗がん剤のエンハーツやDS-1062など。
9 ツガミ	<ul style="list-style-type: none"> ・工作機械中堅。主軸移動型(スイス型)自動旋盤が代表製品。精密加工用途に強み。かつてはIT業界向けの売上比重が高かったが、近年は自動車関連業界向けにシフト。子会社が香港で上場。 ・中国・アジア向け売上高は全社の6割強(2020年3月期)。主力市場の中国で既に現地生産体制を構築していることもあり、現地企業の機械設備の高度化需要拡大などに伴う利益成長を期待。
10 三菱瓦斯化学	<ul style="list-style-type: none"> ・サウジアラビアなどでメタノールの合併事業を行うなど、エネルギーを含む基礎化学品からファインケミカル、機能材料に至る幅広い領域に事業を展開。同社が手掛ける特殊ポリカーボネートは、スマートフォンのカメラレンズ向けなどに需要拡大が期待。

・上記は個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。各社ホームページ、その他三菱UFJ国際投信が信頼できると判断した情報に基づき、作成しています。

日本経済再生戦略株式ファンド 〈愛称:セブン・シスターズ〉

追加型投信／国内／株式

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、主として値上がり益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

投資対象 わが国の金融商品取引所に上場している株式が実質的な主要投資対象です。

・株式の実質組入比率は、原則として高位を保ちます。

運用方法 日本経済再生の恩恵を受けることによって中長期的な利益成長が期待できる企業の株式に投資を行います。

・銘柄選定にあたっては、企業業績や株価指標等の定量分析に加え、ROE(自己資本利益率)向上に向けた経営方針等の定性要因も勘案して投資を行います。

■ファンドの仕組み

・運用は主に日本経済再生戦略株式マザーファンドへの投資を通じて、わが国の株式へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

■分配方針

・年4回の決算時(3・6・9・12月の各20日(休業日の場合は翌営業日))に分配を行います。

・分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。

・分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。また、分配金額は運用実績に応じて変動します。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの**運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。**

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。

・収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。

投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のペビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

日本経済再生戦略株式ファンド (愛称:セブン・シスターズ)

追加型投信/国内/株式

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位/販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万円当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位/販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付 の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2024年9月20日まで(2014年5月1日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎年3・6・9・12月の20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年4回の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限3.3%(税抜 3%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 換金申込受付日の基準価額に**0.3%**をかけた額

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.694%(税抜 年率1.54%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・マザーファンドの換金に伴う信託財産留保額・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufg.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は下記の販売会社まで

ファンド名称: 日本経済再生戦略株式ファンド

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号	○		○	
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○			
十六TT証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第188号	○			
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
とちぎんTT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第32号	○			
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
ほくほくTT証券株式会社(※)	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第24号	○			
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			